

がんセンター

三重大学医学部附属病院

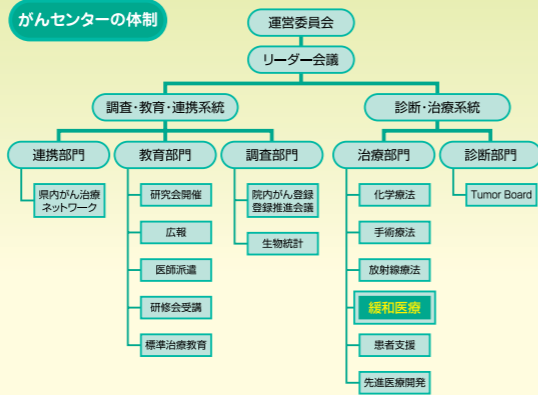
Part II

～緩和ケアチーム～

がんになっても、その人らしくその人が満足できるような生活をめざして

生きてる間に「がん」にかかる可能性は、男性の2人に1人、女性の3人に1人と言われ、年間に30万人以上の方が亡くなっています。医学部附属病院がんセンターでは、三重大学医学部の総力を結集し、効率的で全人的ながん診療に取り組んでいます。

がんセンターの体制



緩和ケアチーム

**緩和ケア**とは、「がん」になったとき、身体的な苦痛だけでなく、精神心理的な苦痛を和らげ、心のケアを含めた全人的な医療のことで、患者様やご家族が充実した生活を送るための大切なケアです。緩和ケアは、がん治療の初期段階から、がん治療と一緒に受ける医療です。

経緯

- 2003年 有志による緩和ケアチームを立ち上げる
- 2004年 活動開始
  - ① コンサルテーション
  - ② チーム定例会
  - ③ 院内事例検討会
  - ④ 緩和ケア学習会
- 2005年11月 正式な組織として発足する
- 2006年 8月 三重大学医学部附属病院がんセンター設立 緩和ケアチームコアメンバーによる定期的な院内回診が始まる
- 2007年 1月 附属病院は、三重県のがん診療連携拠点病院に指定される

がん医療の動向

2007年 4月 「がん対策基本法」施行され、緩和ケアが重点項目の一つに盛りこまれた。

がん看護のスペシャリスト

～専門知識と幅広い経験～



がん看護専門看護師  
中村 喜美子  
Nakamura, Kimiko

院内をくまなく回り、様々な調整をしながら、最良のケアに努めています。

「がん」になっても「がんと共に生きるひとりの人」として少しでも快適に、その人らしく療養生活を送っていただけることを目指し、患者様と向きあっています。また、専門看護師\*として部署を超え、病棟看護師の皆さんと一緒に考え、より良いケアの提供に取り組んでいます。

\*「専門看護師」とは、日本看護協会\*の「専門看護師認定審査」に合格し、ある特定の専門看護分野において卓越した看護実践能力を有すると認められた看護師のことで、6つの役割(実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究)を担っています。

2008年5月12日現在、がん看護専門看護師は、全国で104名(三重県4名)

\*日本看護協会  
【URL】 <http://www.nurse.or.jp/index.html>



「薬」の専門家

～豊かな薬の知識～



薬剤師  
岡本 明大  
Okamoto, Akiharu

患者様が薬を正しく理解し、納得のいく治療が受けられるように全力投球です。

薬剤師は、数年前まで顔の見えない存在でした。しかし、現在は、各病棟に配属され、より患者様に近い所で服薬指導、処方確認等を行っています。

さらに、チーム医療では、医療用麻薬や薬の飲み合わせ等、薬の正しい知識を患者様に提供しています。患者様が痛みをがまんすることなく、生活が送れるように最善を尽くしています。

患者様の精神的な苦痛や不安が和らぐように力を注いでいます。

普段は、一般精神科診療(統合失調症、うつ病など)の治療も行っていきます。

その経験を生かし、精神面でのケアに取り組んでいます。がんなど生命を脅かす疾患に直面すると「生」や「死」、「人生」などについて考えたり、その他様々な心の問題が起こってきます。患者様やご家族だけで抱え込むことのないよう、チームメンバーや病棟スタッフと話し合い解決するよう努力しています。



精神症 状の緩和

～ 対話を大切に～

精神科神経科  
医師  
松本 卓也  
Matsumoto, Takuya



どんなことでも相談できるんだよ!!



緩和ケアチームメンバー

**\* がん相談支援センター \***

がん相談支援センターは、患者様・ご家族の不安を多職種チームでサポートいたします。

● 予約受付時間 ●  
月～金曜日 8:30～17:15

医療福祉支援センター内 がん相談支援センター

電話 059-231-5434 (直通)  
番号 059-232-1111 (代表)